国語科

教科領域研究テーマ
【仲間との関わり合いの中で表現力を高める学習指導の工夫】



国語科

仲間との関わり合いの中で表現力を高める学習指導の工夫

実　践　者　竹縄　隆子，大上　航太，武田　香織
愛媛大学研究パートナー　三浦　和尚

第１章　はじめに

前年次の研究では，仲間との関わり合いの中で表現力を高める学習指導の工夫を行うことが，持続可能な社会の形成に向け，自らを活かす生徒を育てる上で不可欠であると考え，実践に取り組んできた。授業において，相互評価や交流など，小集団活動を適切に取り入れながら指導の工夫を行った結果，自分の経験・価値観・感性などを基に言葉を用いて表現する力（自立の力）と，多様な価値観を認め，互いの個性を尊重したり他と協調しながら進んで行動したりする力（共生の力）を，生徒の自尊感情を高めながら育てていくことができた。

昨年度の実践の有効性を生かしつつ，生徒が単元を通して目的意識・課題意識を継続してもち，仲間とのよりよい関係の中で互いを認め合いながら表現力を高めていけるよう，さらに指導の工夫を行っていきたいと考え，本研究テーマを設定した。

第２章　研究の実際

研究（その１）

他者との交流を通して「書く」活動を取り入れた国語科学習の展開

（実践者）竹縄　隆子

１　研究テーマ設定の理由

「持続可能な社会の形成に向け，自らを活かす」ためには，仲間との関わり合いの中で，互いに学び合えたという実感が必要である。また，「すべての生徒が伸びる学び」というのも仲間との関わり合いの中で，互いに成長できた（互いに伝え合い，思考が深まった）という実感を伴うものだと考える。つまり，単に互いの意見を出し合うだけでなく，意見を出し合ったあとに効果的な活動を行うことが表現力を高めることにつながる。そこで，交流活動を通して創作意欲をもたせ，表現力を高めたい。

このことは，望ましい生徒像に掲げた「豊かな感性や表現力と他者を尊重する心をもち，積極的に自己を開いて他者に働き掛ける」ことにつながると考え，本研究テーマを設定した。

２　研究の内容と方法

(1)　事前アンケート等による生徒の実態把握

(2)　仲間との関わり合いの中で，表現力を高める学習指導の工夫

「互いに学び合えた」という実感をもたせる「関わり合い」をさせるために，互いの意見を出させたあと，それらの意見をどのように集約させ，各個人の考えを深めさせるか（考えが深まったと実感させるか）を研究していきたい。そのために，互いの意見を出しやすい場を設定し，「自分と違う意見」に注目させたい。そうすることで，他者の意見も自分の考えを深めていく中に取り入れるような授業展開を目指す。

具体的には，俳句を創作させたあと，他者が創作した俳句について意見交換を通して鑑賞させ，その意見交換を通して気付いたことを次の創作活動につなげていく。

(3) 生徒の活動の様子やワークシート等の分析

互いに学び合い，思考が深まっていく過程がわかるワークシートの工夫を行う。

以上のことを通して，指導の工夫を行い，その有効性を考察するとともに，そこで得た成果や課題をさらに授業実践に生かしていくこととする。

3 研究の実際

(1) 事前アンケート等による生徒の実態把握

担当学級の生徒（３年生79名）は，文章の内容を読み取ることが得意な生徒が多く，授業に対しても意欲的に取り組んでいる。国語の学習に関するアンケートを行ったところ，詩歌の学習が好きな生徒は55名だった。詩歌（の言葉）からいろいろなことを想像することが好きな生徒は60名と多いが，詩歌を作る学習になると，好きな生徒が26名となる。また，詩歌の鑑賞をすることが好きな生徒は66名である。全員が詩歌の鑑賞をすることは，詩歌を創作することに役立つと考えており，詩歌の鑑賞が語句を豊かにし，表現力を磨くことに役立つと考えている生徒は70名いる。さらに，全員が友達と意見や感想を交流することにより，自分の考えが深まると感じている。そこで，今回は仲間との交流活動を通して，互いの作品を鑑賞し合い，さらに創作意欲をもたせることによって，表現力を高めたい。

(2) 単元構想

本単元では，詩歌を通して作者の心に触れ，作品を楽しむことと意欲的に詩歌を創作していくことをねらいとしている。そのために，創作した詩歌を互いに鑑賞し合い，それを次の創作活動に活かしていく学習を取り入れたい。そうすることで，語句を豊かにし表現力を磨くことができ，また，より詩歌を味わおうとする心情も育てられるのではないかと考える。

本単元で扱う「俳句の世界」は，俳句を自分なりの視点をもって鑑賞し感性を磨き，さらに詩歌の創作につなげていく教材である。詩歌に興味をもち，意欲的に創作するために，互いの作品からどのような世界を想像したか，作品の中でどの言葉が感動の中心になっているかを小集団で意見を交流させながら深めていくといった他者との交流活動を行うのに適した教材である。そういった活動を通して，「互いに学び合えた」という実感を伴う「関わり合い」になり，各個人の考えを深めさせ，感性を磨くことにつながるのではないかと考えた。また，創作した作品を互いに鑑賞することで語彙力をつけ，表現力を高めることにも効果的であると考えた。

そこで，本単元「詩歌を詠もう」を全10時間扱いとし，表１・表２のように単元目標，学習内容，評価規準，言語活動を考え，授業を実践した。

表１ 単元「詩歌を詠もう」の目標

観　点	目　標
関心・意欲・態度	作者の考え方をとらえ，交流活動を進んで行うことにより，自らも俳句を詠もうとする。
話すこと・聞くこと	作品を通して感じたり考えたりしたことについての意見交換を行い，自分の考えを深める。
書くこと	作品の中に表れている人間や社会，自然についての考え方を理解し，自分の意見をまとめたり，自分の思いを詩歌に詠んだりする。

表2　単元「詩歌を詠もう」の構想

学　習　内　容	◇　評　価　規　準　（観　点）	時間
詩の魅力を伝えよう。 ○学習内容と目標を確認する。 ○紹介する詩を選び，情報を集める。	◇学習内容を理解し，選んだ詩に対して自分の考えをもつ。（関心・意欲・態度）	1
○情報を持ち寄り，意見交換を行う。 ○紹介文の内容を検討する。	◇作品を通して感じたり考えたりしたことについての意見交換を行い，自分の考えを深める。（話すこと・聞くこと） ◇他者との交流を通して，集めた情報の中から何を取り上げ，どのように書くかを考えている。（書くこと）	1
○紹介文を書く。	◇書く目的に沿って集めた情報について，さまざまな視点や立場から検討して，考えを深めている。（書くこと）	1
○互いの紹介文を読む。	◇書いた文章を互いに読み合って，情報の活用の仕方や文章の構成を評価し合い，自分の文章に活かそうとしている。（関心・意欲・態度） ◇選んだ詩の中の語句や表現について，その意味の微妙な違いを説明している。（書くこと）	1
俳句の世界 ○学習内容と目標を確認する。 ○俳句の基礎を確認し，俳句を読む。	◇句切れなどの表現の特徴に注意して音読し，句の内容を理解し，鑑賞に活かそうとする。（関心・意欲・態度）	1
○俳句を鑑賞する。 ○鑑賞文を読み合い，相互評価を行う。	◇その句の表現の特徴やよさに注目して，言葉の使い方について考えを深めようとしている。（関心・意欲・態度） ◇俳句から読み取ったことを自分の言葉でまとめることができる。（書くこと）	2
○俳句を詠み，交流し合う。	◇言葉遣いや表現の仕方などを工夫して俳句を詠もうとする。（関心・意欲・態度） ◇友達の句を自分なりに解釈した上で，それを他者に伝えるということを意識して話している。（話すこと・聞くこと）	2
○句会を行う。	◇俳句独自の表現の仕方や特徴をとらえ，俳句を詠んでいる。（書くこと）	1

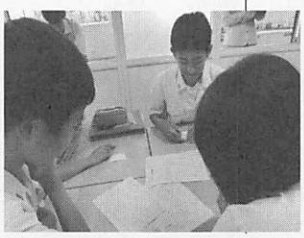
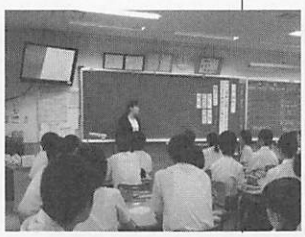
(3)　授業の実際（9／10時間）

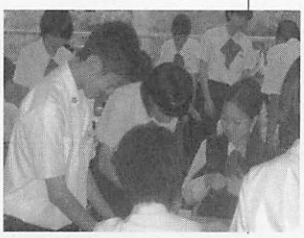
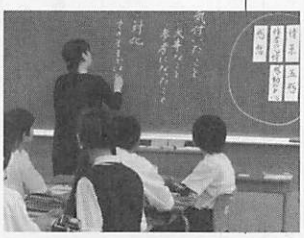
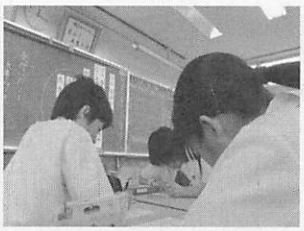
ア　ねらい

○　友達の作った俳句を自分なりに解釈した上で，それを他者に伝えることを意識して話すことができる。

○　交流活動を活かして，自分の表現の仕方を見直し，俳句を詠もうとする。

イ　展開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ　•主な生徒の反応	○指導の工夫◇評価(方法)
1　前時の学習を振り返る。 （一斉）	5	○どのような俳句を詠んだか。 •「梅雨めく」を季題として俳句に詠んだ。 プレ「句会」を開いて，互いの句のよさを次の俳句の創作に活かそう。	○創作した俳句を互いに鑑賞させるために，どのように俳句を作ったかを確認させた。
2　鑑賞のポイントを確認する。 （一斉）  鑑賞のポイントの確認	5	○俳句を鑑賞するときのポイントを確認しよう。 •読み取れる情景 •五感で感じること •作者がどこで何を見ているか •感動の中心になる言葉 •作者の心情 •読み手が感じること	○意見交換をしやすくさせるために，以前行った俳句の鑑賞のポイントを確認させた。
3　他者が創作した俳句について意見交換を通して鑑賞する。  小集団活動の様子	30	○それぞれの俳句について意見交換をしよう。 •雨が降り出すのを心配しながら登校している様子を感じる。 •作者には雨が降ってほしくない何かがあるのだなと感じる。 ○意見交換したことをもとに付箋に鑑賞したことのキーワードを書こう。 •ぬれたグランド→部活動をしたい気持ち •耳すませ→一人で家にいる •空の悲しみ→雨 •雨と過ぎゆく過去の日々→つらい •ハイタッチ→仲間と協力して頑張る姿	○それぞれの句のよいところに注目させるために，どの言葉からどんな情景や心情が読み取れるかを話し合わせた。 ◇句を自分なりに解釈した上で，それを他者に伝えるということを意識して話している。 （観察・ワークシートの分析）
 選んだ作品のよさを紹介している様子		○小集団で話し合ったよい作品を紹介しよう。また，選ばれた人はどのような情景を詠んだ句かを述べよう。 •この言葉を使うことによって，頑張りを表しているところがよいと思う。 •総体に向け部活動を頑張っている様子を詠んだ。	○互いの句を鑑賞させ合うことによって，自己有用感を高め，表現の仕方を意識させた。

4　交流活動を通して，気付いたことの確認をする。  鑑賞したことを伝え合っている様子  気付いたことや参考にしたいことを確認している様子	5	○班で鑑賞したことを作者に伝えよう。また，どんなことを詠んだ句かを聞こう。 • 「梅雨めきて空の悲しみしくしくと」感動の中心はしくしくとだと思う。自分の気持ちと梅雨の空を合わせてうまく表現している。家の中でボーっとしている。 • 「梅雨めく日しずかな風に耳すませ」一人で散歩している。鳥とか車とか何か音が聞こえている。風が吹いている。 ○交流活動を通して気付いた大事なことや参考にしたいことを確認しよう。 • 一文字変えたり，語尾を変えたりするだけでイメージが変わると思った。 • 最初に情景をしっかりと思い浮かべて句を詠むことが大事だと思った。 • 切れ字を使うことで感動の中心がわかりやすい。 • 対比させると面白いと思った。 ○次の時間は今日確認したことを活かして俳句を詠み，句会を開こう。	○俳句の創作の際に意識することに気付かせるために，交流活動を振り返らせた。 ◇交流活動を通して気付いたことを参考にしながら次の俳句の創作に臨もうとする。 （観察・ワークシートの分析）  交流活動を通して気付いたことを書いている様子
5　本時のまとめと次時の確認をする。（一斉）	5		

4　考察

(1)　授業研究の視点について

授業研究の視点	○互いの句を鑑賞して，よさを見つけ伝え合うことは，表現力を高める手段として適切であったか。 ○互いの句を鑑賞し合ったことを振り返ったことは，自己有用感を高め，表現の仕方を意識させるのに有効であったか。

研究授業を見ていただいた先生方の意見を以下に紹介する。

○互いの句を鑑賞して，よさを見つけ伝え合うことは，表現力を高める手段として適切であったか。

○「よい表現にするために」という意図がはっきりしていた。ただし，ねらいに「自分の解釈を相手に伝える」も設定されているのなら，鑑賞のポイントや選ぶときの基準（単によいものではなく）をより明確にして，それが話す力につながるものになるとよいと思った。

○俳句を鑑賞するときのポイントを押さえていたので，そのポイントを活用しないといけない状況になっている点がよかった。

○班活動のときに，しっかりとした意見が言える生徒が言ってしまうと終わってしまいがちになる。意見が言いにくい生徒にも意見を聞いていたが，「なぜ？」という言葉が出ない。互いの意見を聞くときに，「なぜ？」と聞くくせをつけることが大事だ。

○互いの句を鑑賞し合ったことを振り返ったことは，自己有用感を高め，表現の仕方を意識させるのに有効であったか。

○最後の振返りは特に効果的だと思った。子ども同士で返したものの中に，工夫している点，うまいと思わせる点の指摘がなされていれば，さらに効果が生まれると思った。 ○最後のまとめの際，技巧的なことが主に出ていたが，それだけでよかったかは考えてみるとよいと思う。（技巧的なことだけでもそれなりに効果があったと言えるが，さらに上のものを目指すなら）

(2) 生徒作品による生徒の実態と課題

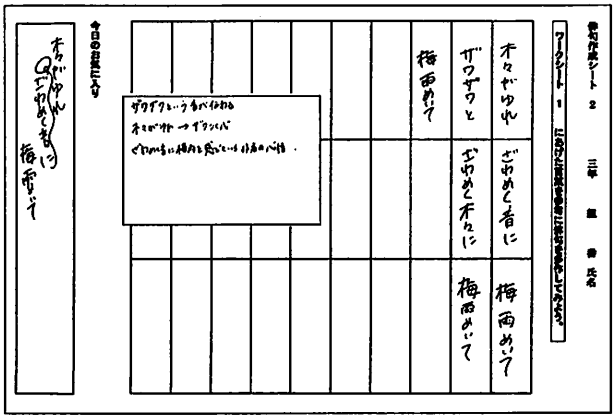


図１　プレ「句会」のときの作品

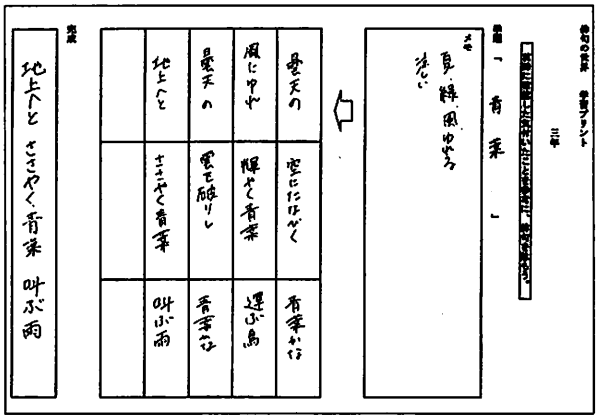


図２　プレ「句会」後の作品

上記の俳句を創作した生徒は，プレ「句会」を行ったときには，お互いの俳句を鑑賞して気付いた大事なことや参考にしたいこととして「俳句を鑑賞して，句から感じる音やにおいがあるとよいと思った。また，対比などの表現技法を使いたい。」と述べていた。次時で「青葉」という季題で句を詠んだ。句会では，「『ささやく青葉』と『叫ぶ雨』という対比が面白い。」や「擬人法や体言止めを使っていてよい。」というコメントが寄せられたが，本人が意識して感じる音や対比といった表現技法を俳句に取り入れていることがわかる。本人も「その場の風景を表す俳句を詠むことができた。」と感想を述べている。

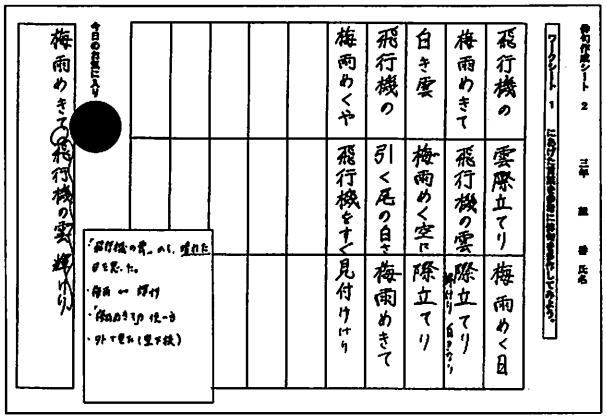


図３　プレ「句会」のときの作品

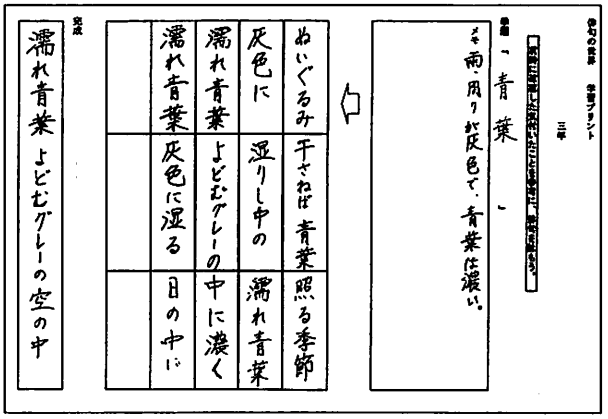


図４　プレ「句会」後の作品

上記の俳句を創作した生徒は，プレ「句会」を行ったときに，小集団でよい作品として選ばれている。プレ「句会」を行ったときには，お互いの俳句を鑑賞して気付いた大事なことや参考にしたいこととして「そのまま感想を詠むのではなく，言葉のイメージを大事にしたい。」と述べていた。次時で「青葉」という季題で句を詠んだときには，句会で「グレーの中で青葉がくっき

りピントがあって見えるような情景が思い浮かんだ。」や「『青葉濡れ』ではなく『濡れ青葉』にしたところがよいと思った。情景が目に浮かぶ句だと思った。」といったコメントが寄せられた。この俳句からも本人が意識していた言葉のイメージに対するこだわりが感じられる。また，この生徒は俳句の授業の最後の感想で「俳人は短い句の中にしっかりと見たものや思ったことを込めていたり，それらのヒントをうまく入れていたりして上手だと思った。自分で味わい深い俳句を作るのは難しいと思った。」と述べ，鑑賞の力や創作の力がつきつつあることがうかがえる。

俳句の授業，全体を通しての感想を以下に紹介する。（創作意欲に関することを＿＿線，表現力の高まりに関することを＿＿線で示す。）

○他の人が作った句を鑑賞することで，自分にはない考え方や表現の仕方を知ることができ，とても楽しかった。また，自分で句を作ってみて，それをどう直していくか考えるのもおもしろかった。もっといろいろな句を作ってみたい。

○自分で俳句を創作するのも楽しかったけれども，特に，友達がどんな俳句を詠んだのかを見るのがおもしろかった。今後使えそうな表現や季語の捉え方の違いがたくさんあって，とても勉強になった。同じ季語でもいろいろな情景が思い浮かぶので楽しいと思った。

○季語の入れる位置や使い方を工夫することで印象がとても変わるということを実感した。友達の俳句を読んでいて気付いたことは，比喩を使うと情景が広がることだ。もっと言葉のレパートリーを増やしたいと思った。

○今まで，どのように俳句を作ればよい句ができるのか，分からなかったけれども，授業で切れ字や対比などの表現技法を使うとよいと分かった。今までは，俳句を作るのはあまり好きではなく，苦手だったけれど，楽しくなった。俳句を鑑賞するのはいろいろな情景を思い浮かべたりできるのでおもしろかった。

○自分が想像していたことと，相手が想像していたことが違っているなど，いろいろな感想などが聞けてとてもおもしろかった。初めに作った俳句よりも後から作った俳句の方が上達していてうれしかった。また，機会があれば俳句を作ってみたい。

○俳句は風景を詠んでいるようで心を詠んでいるのだと思った。友達の作品を見ていても，言葉を丁寧に選んでいる人が，２回目の句会の方が多かった。情景を読み取ってもらうためには，短文のような俳句も意味を隠しすぎている俳句も適さないと思った。

今回の取組では，プレ「句会」を行って，友達の作った俳句を自分なりに解釈した上で，それを他者に伝えることを意識した交流活動を行った。生徒の感想からもこの交流活動が創作意欲をもつことにつながったことがうかがえる。ある程度の創作意欲をもって，自分の表現の仕方を見直し，もう一度，季題を変えて俳句を詠ませることができた。その結果，プレ「句会」を行ったことが，次の俳句の創作に役立ったと感じている生徒も多かった。プレ「句会」をやることによって気付いたことや参考になったことを次の俳句の創作時に意識している生徒も多かった。そういった点では，プレ「句会」で交流活動を行ったことが，自分の表現の仕方を見直すことに役立ったといえる。

しかし，授業を見ていただいた先生からも指摘があったが，活動３の他者が創作した俳句について，意見交換させながら鑑賞させる活動では，意見を述べるだけで交流になっていない場面も見られた。今回は，敢えてメモ等は取らせずに思いつくままに意見を述べさせたが，自分の思いは伝えられても，相手の意見をどう受け止めて，どのように言葉を返せば意見の交流になるかということまでは意識させることができなかった。意見を交流させるためにどのように聞くか，交流の目的を明確にした聞き方の指導は未開拓といえる領域であり，今後の課題としたい。

研究（その2）

一人一人の書く力を高める指導の工夫

―創作活動・交流活動を取り入れた学習を通して―

（実践者）大上　航太

1　研究テーマ設定の理由

持続可能な社会の形成に向け，自らを活かす生徒を育成するためには，自分の経験・価値観・感性などを基に言葉を用いて表現する力（自立の力）と，多様な価値観を認め，互いの個性を尊重したり他と協調しながら進んで行動したりする力（共生の力）を，仲間との関わり合いの中で自らの自尊感情を高めながら育てていくことが効果的である。

仲間との関わり合いの中で表現力を高めるためには，自分の思いを相手に伝えたり，相手の考えに良い影響を受けて新しい発見につなげたりするための場の設定が不可欠である。しかし，集団の中で生徒独自の表現が求められるような場面では，生徒は自分の考えが周りに認められるか，あるいは自分の思いがうまく伝わるかということを考えるなど，他者を意識するあまり自分の表現に自信がもてなくなり，積極的に表現したり関わったりすることができない場合がある。つまり，表現力を高めるために他者と関わらせているのに，かえって表現しようとする意欲を減退させてしまうことがある。そこで，目的を果たすために小集団で力を合わせながら自分を活かす協同の場として創作活動を取り入れ，自分なりに表現できる状況を作り出すとともに，お互いの良さを認め合いながら他者と交流できる場を設定することで，よりよい表現にしていこうとする意欲をもたせれば，一人一人の書く力を高めることができるのではないかと考え，本研究テーマを設定した。

昨年度前半の取組において，創作の過程に交流活動は不可欠であり，小集団による評価的な活動を取り入れることが有効であることが分かった。特に，ワークシートを活用して，お互いが「良いところ」「気に入った理由」を書かせ残る形にして交流させる方法には一定の効果が見られた。しかし，さらに質の高い交流活動にするためには「関わる」だけでなく「関わり合う」ことが必要である。そのためには，自分の意見を一方的に伝える活動だけでは不十分で，それぞれの良いところやアドバイスをお互いが受け入れながら，実際に自分の表現に生かしていく活動にしていくことが大事であることが分かった。

これらの課題を基に，さらに指導の工夫を行っていく。

2　研究の内容と方法

(1)　事前アンケート等による生徒の実態把握

(2)　協同の学び合いの中で表現力を高める学習指導の工夫

目的を果たすために小集団で力を合わせながら自分を活かすことができるように，単元を通して持続できる課題意識をもたせるとともに，言語活動を単元の中で効果的に位置付ける。そのことで，一人一人の書く力を身に付けさせるとともに，自分が成長できたという実感をもたせる。また，自分の考えの変化や他者との関わりについて振り返ることができるワークシート等の作成を行う。

(3)　生徒の活動の様子やワークシート等の分析

以上のことを通して，指導の工夫を行い，その有効性を考察するとともに，そこで得た成果や課題を以後の授業実践に生かしていくこととする。

3　研究の実際

(1)　事前アンケート等による生徒の実態把握

本学級の生徒（男子20名，女子21名，計41名）は，明るく素直な態度で授業に臨むことができており，与えられた課題に対してひたむきに取り組む姿がうかがえる。事前のアンケート調査では，物語や小説を扱った授業が好きだと答えた生徒が35人，物語の創作が好きだと答えた生徒が37人，国語の授業において自分なりの考えを書くことが好きだと答えた生徒が35人，国語の授業において自分なりの考えを書くことが得意だと答えた生徒が18人，国語の授業の話合いや友達の考えにより，自分の考えが広げられたり深められたりしていると感じると答えた生徒が38人であった。また，国語の授業で自分なりの考えが書きづらい理由に「自分の考えが合っているか自信がない」「内容が人と違っていないか不安」「想像ができず何を書けばいいか分からない」「思ったことをうまく整理したり表現したりできない」などの回答があった。多くの生徒が物語・小説を扱った授業に対して興味・関心をもっており，自分なりの考えや創作文を書くことを好意的に捉えている反面，自分なりの考えを書くことについては，他者の意見と違うことに不安を感じたり，思ったことが言葉にならないもどかしさを感じたりしている生徒が少なからずいた。ただし，他者との関わりから自分の考えを深めることについてはほとんどの生徒がその必要性を認めていた。

(2)　単元構想

「オリジナル『平家物語』をつくろう」という単元（全６時間）を設定し，表１，表２のように単元目標，学習内容と評価規準について考え，仲間と関わり合いお互いの考えを交流させながら，自分なりの見方を生かし物語の一場面を書く活動を取り入れた授業を実践した。

本単元で扱う「平家物語」は鎌倉時代に成立した，平家の栄華と没落を描いた軍記物語であり，和漢混交文で書かれた平易で流麗な文は広く知られている。ただし，教科書掲載文の基である「覚一本」以外にも多くの諸本が存在し，同じ場面でも描かれ方は一様ではない。また，現代でも小説・ドラマ・漫画など「平家物語」を基にしながら独自の視点で描かれている作品があり，歴史的な事実を尊重する姿勢をもたせながらも生徒独自のものの見方を生かすことが可能な題材であると考えた。

そこで，物語の一場面を自分なりに考えて書く活動を設定することにより，自分の考えを積極的に書く態度を養うとともに，交流する活動を設定することで，他者を尊重する心をもち，積極的に自己を開いて他者に働き掛けようとする生徒を目指した。特に，自分の考えを文章に書く場面では，思ったことを整理して書いたり書く内容を想像したりしやすくするために，そして，書くのが得意・不得意な生徒どちらにも書きやすくなるようにワークシートを工夫した。また，書いた内容について交流を行う場面では，付箋紙を使用させることで，相手の記述の良いところやアドバイスを述べ合うための手助けとし，自分の考えを広げさせるとともに，互いの多様な価値観を認める態度を育てることにつなげた。互いの考えを認め合う中で，自分自身の考えに肯定感がもてるようになれば，そのことがより良い文章を進んで書こうとする意欲につながると考えた。

表１　単元目標

関心・意欲・態度	書いた文章を互いに読み合い，進んで意見を述べたり助言をしたりして，自分の考えを広げようとする。
書くこと	登場人物の心情などが読み手に効果的に伝わるように，描写を工夫して書くことができる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	作品の特徴を生かして朗読したり登場人物の思いを想像したりして，古典の世界を楽しむことができる。

表2　学習内容と評価規準（全6時間）

次	学　習　内　容	評　価　規　準（観点）	時間
1	学習の見通しをもとう。 ○単元の学習活動と目標を確認する。 ○「平家物語」のあらすじや描かれている時代について知る。 ○冒頭の部分を朗読する。	◇漢文調の文体に注意して朗読している。（伝統的な言語文化）	1
2	「敦盛最期」における登場人物の心情を考えよう。 ○「敦盛最期」を読み，直実と敦盛の心情について書く。	◇登場人物の心情について，文章の内容を基に自分の考えを書いている。（書くこと）	1
3	自分の視点で「扇の的」を書こう。 ○「扇の的」における，扇が射抜かれた後の様子や登場人物の心情について考える。	◇登場人物の思いを自分なりに想像している。（伝統的な言語文化）	1
	○「扇の的」の中の一場面について自分なりの見方を交えて書く。 ○お互いが書いた，扇が射抜かれた後の様子や登場人物の心情について交流を行いお互いの記述について意見を述べ合う。 ○交流したことを基に文章を書く。	◇扇の落ちる様子や登場人物の心情について，文章の内容や条件を基に書いている。（書くこと） ◇お互いが書いた文章について，進んで意見を述べたり助言をしたりして，自分の考えを広げようとしている。（関心・意欲・態度） ◇扇が射抜かれた後の様子や登場人物の心情が読み手に効果的に伝わるように描写を工夫している。（書くこと）	2
	○お互いの作品を読み味わう。 ○単元の学習を振り返る。	◇相手が書いた文章から自分の考えを広げようとしている。（関心・意欲・態度）	1

(3)　授業の実際（4／6時間）

ア　ねらい

○進んで意見を交わし自分の考えを広げようとする。

○文章の内容や条件を基に，場面の様子や登場人物の心情について書くことができる。

イ　展開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ　・生徒の反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　「扇の的」を朗読し，本時の学習課題を確認する。（一斉）	5	○「扇の的」を朗読しよう。 「扇の的」の一場面について書いたものを班の人と交流しよう。	○古典独特のリズムに慣れ親しませるために，声に出して読ませた。
2　「扇の的」の一場面について条件（時間，出来事）を踏まえて書く。（個人）	10	○文章を書く際の条件（時間，出来事）を確認しよう。 ○「扇の的」の一場面について書こう。 ・扇の美しい落ち方にはどのような表現があるだろうか。 ・どのような書き方をすれば源氏や平家の人たちの気持ちが伝わるだろうか。 ・那須与一の気持ちや表情が描かれている文章にすると面白くなるのではないか。	○創作文を書く抵抗を軽減させるために，ワークシートの上段を源氏方・那須与一・平家方の心情やせりふを空欄にしたものにした。また，書くのが得意な生徒がすぐ文章を書けるように，ワークシートの下段は罫線のみにした。 ◇場面の様子や登場人物の心情について書く。（ワークシートの記述分析）

3　お互いの表現について，気に入った表現やアドバイスできることを考え，指摘し合う。	20		
(1)　書いた文章をお互いに読み合い，お互いに気に入った表現やアドバイスを考える。 （ペア） ↓ （小集団）	(15)	○同じ箇所について書いている隣の人同士で気に入った表現やアドバイスについて話し合おう。 ・那須与一の気持ちが「安どの息をつく」という表現でよく分かる。 ○同じ班で違う箇所について書いている人と気に入った表現やアドバイスについて話し合おう。 ・与一の気持ちを具体的に書くと，伝えたいことがよりはっきりして良いのではないか。	○記述した内容について，お互いに良いところを述べさせたりアドバイスをさせたりすることで，考えを広げさせ，互いを認め合う心情を抱かせるとともに，書く意欲を高めた。 ○相手の表現に対する考えを２色の付箋紙（【青】気に入った表現，【緑】アドバイス）を使って書かせることで，話し合う際に気付いたことを述べやすくさせた。 ◇進んで意見を交わす。（観察）
(2)　他の人の記述について全体で共有する。 （全体）	(5)	○友達の書いた文章を参考にしよう。 ・自分が気づかなかった表現を教えてくれた。 ・自分の考えの曖昧な部分が分かった。	○工夫した表現を全体で取り上げ紹介することで，さらに考えを広げられるようにした。
4　交流を踏まえて自分の記述を見直す。 （個人）	10	○アドバイスを基に自分の表現を見直そう。 ・当たっているかどうか不安だった表現に自信がもてた。 ・自分の考えと似たもの，違うものを知ることで，内容を付け足すことができた。	◇相手から得た自分の表現の良さ，アドバイスから自分の表現を見直す。（付箋紙･ワークシートの記述分析）
5　本時のまとめを行い，次時の活動の確認を行う。　（一斉）	5	○今日の授業について振り返ろう。 ・自分が書いたことを読み手がどう思うか分かった。	○アンケートを使って授業について振り返らせることで，自分の考えの変容や交流した効果について実感させた。

4　考察

まず，授業後に実施したアンケートの結果と，ワークシートに記述させる前に教師が読んだ文章例を挙げる。

表３　授業後のアンケート結果

質　問　内　容	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた生徒の割合（41人中）
先生が出した例（文章）や説明により，自分の考えが書きやすくなった。	100%　(41人)
付箋紙を使うことにより，話合いがしやすくなった。	100%　(41人)
自分の良いところを発見できた。	82.9%　(34人)
友達の良いところを発見できた。	97.6%　(40人)
【班で交流を行ったことで得られた効果（自由記述）】 ○自分の発想が広がり文章が書きやすくなった。 ○他の人の意見を聞くことでよりよい表現を自分のものにすることができた。 ○自分が表現しにくかったことを他の人の表現を見て書けるようになった。	

○客観的な意見を友達からもらうことができた。
○自分が書いたことを他の人がどう捉えてくれるのか分かったので良かった。
○自分の考えの曖昧なところが分かった。
○人の考えや表現の良いところを知ることができた。
○人の意見を聞くと，自分の考えと違うもの，同じものが分かり，自分の考えに付け足すことができた。
○自分と真逆の視点の意見を聞くことができた。
○当たっているかどうか不安だった表現に自信がもてた。
○アドバイスの付箋紙が役に立った。おかげで新たな発見があった。
○お互いの考えを受け入れることができた。

【授業の感想（自由記述）】
○先生が最初に見本を示してくれたので書きやすかった。
○付箋紙を使って効率よく話し合うことができた。
○付箋紙を使うことで考えやすかった。
○ワークシートを使って考えを深めることができた。
○班の人との交流があったので，発表しやすく，楽しく取り組むことができた。
○いろいろな表現があることが分かり楽しかった。
○それぞれの人の意見が違うところがおもしろかった。
○他の人が自分にはない考えをもっていて本当にすごいと感じた。
○文章を書くのは難しいが，楽しく取り組むことができた。
○「平家物語」に興味がもてるようになった。
○自分なりの視点で「平家物語」を書く活動はおもしろい。
○自分なりの表現ができたので次の物語作りに生かしたい。
○書く時間がもう少しあれば良かった。

表４　ワークシートに記述させる前に教師が読んだ文章例

与一はもう一度目を閉じた。神に祈ってはみたものの，最後に頼れるのは己の力。失敗は許されない。いや，自分の誇りにかけて成功してみせる。今までも激しい戦を自分の腕でくぐり抜けてきたではないか。今回も……。

ゆっくりと深呼吸をした与一は，ぱっと目を見開いた。その表情にもう固さも迷いの色も見られない。鍛えられた太い腕でぎゅっと弓を引き絞った。弓が湾曲しうなり声をあげる，と思った瞬間，矢は音を響かせながら美しい弧を描き，あっけないほど簡単に扇を打ち抜いた。

以上のことにより，次のことが言えるのではないか。
○創作文を書かせる際には参考となる例文があると効果的である。
○「気に入った表現（青）」「アドバイス（緑）」２色の付箋紙を交流する際に活用することで，話合いを効率よく進めたり，自分の表現の幅を広げたり，自分の表現を客観的に見つめ直したり，あるいは自分の表現に自信をもって次の創作活動に臨んだりすることができる。
○物語の一場面を自分なりに考えて書く活動を設定することにより，自分の考えを積極的に書く態度を養うことができる。

次に，生徒が記入したワークシートと次時の活動で書いた創作文から本時のねらいが達成できたか考察する。例として，２名の生徒それぞれのワークシートと，その生徒が次時に書いた創作文を掲載する。

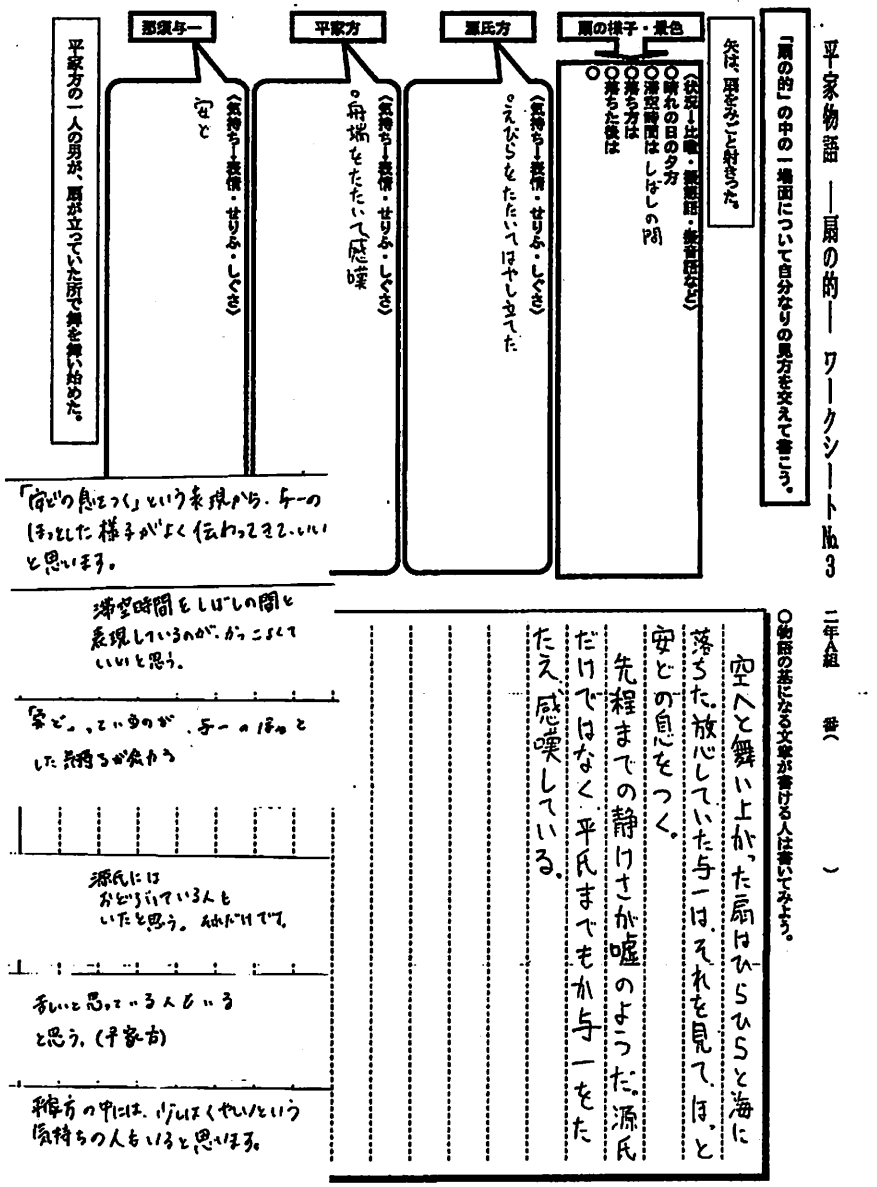


図１　生徒Ａのワークシート

※　左は小集団活動の際に貼られた付箋紙（上３枚は気に入った表現，下３枚はアドバイス）



図２　生徒Ａの創作文

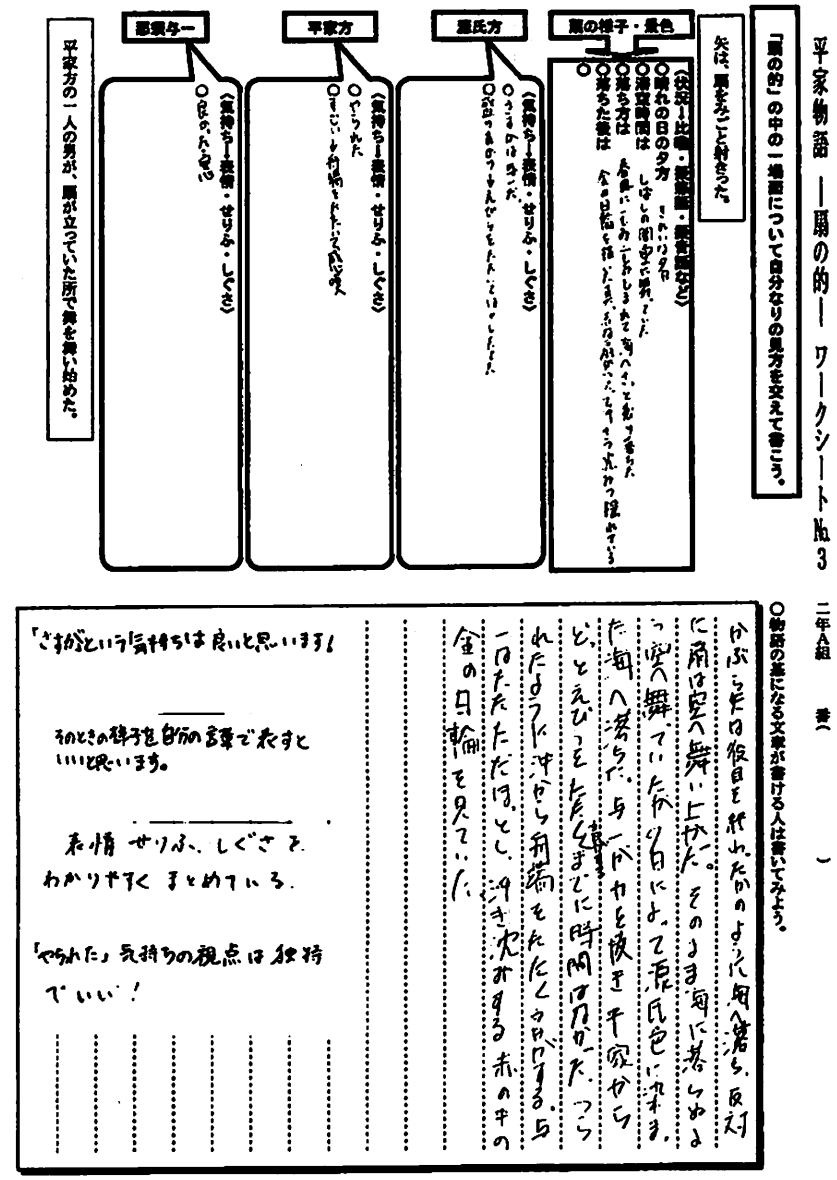
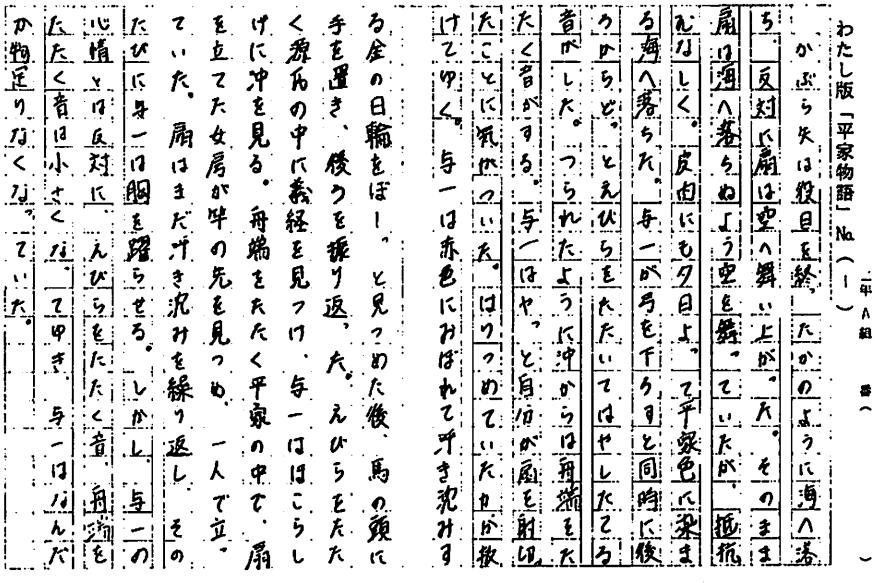


図３　生徒Ｂのワークシート

※　左は小集団活動の際に貼られた付箋紙（上から２枚目はアドバイス，それ以外は気に入った表現）


わたし版「平家物語」No.（一）　二年A組　番（　）

かぶら矢は役目を終えたかのように海へ落ち、反対に扇は空へ舞い上がった。そのまま扇は海へ落ちぬよう空を舞っていたが、扇扇れなしく。皮肉にも夕日よ。て平家色に染まる海へ落ちた。与一が弓を下ろすと同時に後ろからどよえびらをたたいてはやしたてる音がした。つられたように沖からは舟端をたたく音がする。与一はやっと自分が扇を射ぬいたことに気がついた。はりつめていた力が抜けてゆく。与一は赤色におぼれて叫き沈みする金の日輪をぼーっと見つめた後、馬の頭に手を置き、後ろを振り返った。えびらをたたく源氏の中に義経を見つけ、与一はほこらしげに沖を見る。舟端をたたく平家の中で、扇を立てた女房が弓の先を見つめ、一人で立っていた。扇はまだ叫き沈みを繰り返し、そのたびに与一は胸を躍らせる。しかし、与一の心情とは反対に、えびらをたたく音、舟端をたたく音は小さくなっていった。

図４　生徒Ｂの創作文

図１～４のように，他者からのアドバイスを受けた後自分の表現に手を加え，それを創作文に生かすことができた生徒がほとんどであった。また，授業を行った生徒全員がワークシートの内容を踏まえて創作文を書くことができた。また，生徒の授業後のアンケート結果からも分かるとおり，他者から気に入った表現を指摘してもらうことで，自分の表現に自信をもって創作文を書くことができた生徒がいた。

次に，授業実践において授業研究の視点を２つ設け，それを踏まえて観察してもらった方の意見や授業後のアンケートを基に考察を行った。

【授業研究の視点１】「ワークシートの上段を源氏方・那須与一・平家方の心情やせりふを空欄にしたものにする」「書くのが得意な生徒がすぐ文章を書けるように，ワークシートの下段はけい線のみにする」は，自分独自の考えを表現することへの抵抗感を軽減させるのに効果があったか。
○上段，下段どちらから書いてもかまわないという指示があったため，取りかかりがスムーズであったように見えた。ただ，制限時間と，どの部分をどこまで仕上げることを求められているのか，あるいは求められていないのかを不安に思っている生徒がいたように見えた。 ○ワークシートを使うだけでなく，自分のノートに創造性をもたせて書くという方法もあるのではないか。

【授業研究の視点２】「記述した内容について，お互いに良いところを述べさせたりアドバイスをさせたりする」「相手の表現に対する考えを２色の付箋紙（【青】気に入った表現，【緑】アドバイス）を使って書かせる」は，お互いの良さを発見させ自己の肯定感を高めることにつながったか。
○「いいね」「こんなのもあるよ」という観点は，書くことの授業には大切なことである。 ○青色の付箋紙（気に入った表現）が多く貼られており，自分の表現への賞賛やアドバイスなどを励みとしたり，認められていることを喜んだりしているように感じた。自己肯定感はしっかりもてていたように感じた。 ○二種類の付箋紙を使ってグループ内でアドバイスする方法は効果的であり，よく行われているが，中には付箋紙の色の使い分けができていない生徒もいた。 ○相手の表現を受け入れる姿が多く見られたが，「受け入れる→対立する→融合する」ために「対立」の場面を設定してみてはどうか。 ○受け入れるばかりでは相手の表現をまねするだけになってしまいかねないので磨き合うような場を設定してみてはどうか。

ワークシートを，登場人物のせりふや情景描写について箇条書でメモできる上段と，思いついた文章をそのまま書ける下段に分けることで，生徒の書きやすい方法で書き始めることができる点が効果的であったと言える。ただし，どこまで仕上げることを求められているのか，いつまでに仕上げるのか事前の指示が明確でなかったため，戸惑う生徒が見られた。

「気に入った表現（青）」「アドバイス（緑）」２色の付箋紙を交流する際に活用することで，自分の表現の幅を広げ，自分の表現に自信をもって次の創作活動に臨むことができるようになったことがここでも言える。お互いに青色の付箋紙（気に入った表現）を使うことにより，相手を認める意識をもったり，あるいは相手に認めてもらいながら自己肯定感をもったりすることができた。しかし，よりよい表現に結びつけるためには，お互いの意見の違いを認識させた上で練り上げていくことも大事であることが分かった。ただ，個々が完成を目指して表現しているものに対して客観的に良しあしを論じるのは中学２年生の段階では（あるいは中学２年生でなくとも）難しいことであるとも考える。今回の取組を生かしつつ，お互いの意見の違いを生かしながら練り上げていくのに適切な活動，例えば小集団で一つの作品を作り上げていくような活動も取り入れていけばよいと考える。

研究（その３）

他者と関わり合う言語活動を通した表現力を高める学習指導（音声言語）の工夫

（実践者）武田　香織

１　研究テーマ設定の理由

本校研究テーマ「持続可能な社会の形成に向け，自らを活かす生徒の育成～すべての生徒が伸びる学びの追求～」において「自らを活かす」とは，自分の可能性を信じ，個や集団の目標達成のために行動できる力をもつことであると考えた。そのために必要なのは多様な場において他者と関わることができる力を支える表現力である。そこで，仲間との関わり合いの場の設定をより工夫し，お互いに認め合うことを通して考え方を広げ，表現力を高めることによって「すべての生徒が伸びる学び」に迫ることができるのではないかと考えた。

表現力を高めるためには生徒が目的意識をもつこと，よりよい表現をしたいと思う場の設定の工夫が必要である。目的意識を明確にし，場の設定を工夫することによって生徒の表現意欲，向上意欲を高め，関わり合わせることによって互いに表現力を磨き合えるのではないかと考え，本研究テーマを設定した。昨年度の「書くこと」に続いて，今年度は「話すこと・聞くこと」を中心に研究を進めてきた。

２　研究内容と方法

(1)　仲間との関わり合いの中で表現力を高める学習指導の工夫

(2)　生徒の活動の様子やワークシート等の分析

３　研究の実際

(1)　仲間との関わり合いの中で表現力を高める学習指導の工夫（第２学年）

ア　生徒の実態と指導の工夫

生徒は，素直な態度で授業に臨むことができており，互いの意見を温かく受け入れる雰囲気をもっている。また，与えられた課題に対して一生懸命に取り組む姿勢が見られ，挙手も積極的な生徒が多い。しかし新たな学級としてスタートしてから１か月半が経過した時点では，お互いの意見を交換する場面において遠慮が見られ，自分の意見を積極的に述べたり，自己を開いた発言をしたりするには及んでいない印象を受けた。アンケート調査（４月中旬実施）では，表現活動で見ると，作文等の「書くこと」が好きだ，あるいは得意だと答えた生徒が半数を超え，苦手意識をもつ生徒が減少していることが分かる。昨年度の研究が一定の成果を挙げていると思われる。「話すこと」では，討論やディスカッションが好きだ，得意だと答えた生徒は30名を超えるが，好きではない，苦手だと答えた生徒は個人での発表も苦手だと感じていることが分かった。得意だと答えた生徒の一人は「自分の意見も言えたし，いろいろな意見が聞けておもしろかった」と記述している。そのことから，苦手だと感じるのは，音声言語による活動は形が残りにくいため，自分自身での振り返りが難しく，自己肯定感が得られにくいことも一因と推察した。

本単元「プレゼンテーションをしよう」（光村図書）は，調べたことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり，それらを聞いて意見を述べたりする，という活動の一つである。今回は附属中学校の運動会について１年生に説明する，という言語活動を中心に単元を構想した。自分たちが経験した行事なので題材として扱いやすく，一方で，１年時には４学級のそれぞれ違う立場で経験しているため，考えが広がりやすいと考えたからである。

本単元では，仲間と関わり合い，お互いの思いを交流しながら，分かりやすく表現することをテーマに学習を行った。「運動会」という大きな題材をもとに，どのような項目に分けて説明すればよいかを学級全体で話し合った後，小集団でそれぞれのプレゼンテーションを完成させていく。それぞれの立場からたくさんの意見を出し，より分かりやすい構成や表現を目指して批評的な交流を行い，できあがったプレゼンテーションを互いに認め合う共感的な交流の三つを意図している。目的意識が明確な活動を通して自分たちの表現を見つめ直すとともに，班員と協力することで単独では思いつかなかったアイデアが生まれることを実感させ，協同の精神を養うことにつなげることを意図して表１，２のように単元を構想した。

表１　単元目標

観　　点	目　　標
関心・意欲・態度	目的や場面に応じ，立場や考えの違いを踏まえて話したり，考えを比べながら聞いたり，相手の立場を尊重して話し合ったりしようとしている。 聞き取ったり考えたりしたことについて，聴き手が理解しやすいように工夫して説明しようとする。
話すこと・聞くこと	分かりやすく説明するために，資料や機器を活用して要点を示したり，写真や図などの資料を活用したりして話すことができる。 説明に対する聞き手の意見や質問を予想して，話の中心と付加的な部分との関係に注意し，分かりやすい構成や展開を考えて話すことができる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	相手に分かりやすい説明をするために，文の中の文の成分の順序や照応，文の構成などについて工夫することができる。 相手や目的に応じて，話の形態や展開に違いがあることを理解して話している。

表２　指導計画（全９時間）

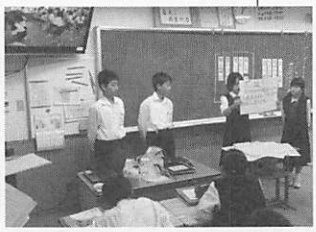
学習内容	◇　評　価　規　準　（観　点）	時間
プレゼンテーションをしよう ○単元の学習活動と目標を確認する。 ○プレゼンテーションの意味と目的を知る。	◇プレゼンテーションついて知り，自分の考えをもつ。（関心・意欲・態度）	1
○テーマを決定する。 ○内容や流れ，順序を考える。 ○資料を集める。	◇小集団における活動で進んで他者に関わろうとする。（関心・意欲・態度） ◇相手の考えを尊重し，目的に沿って話し合い，互いの発言を検討して自分の考えを広げている。（話すこと･聞くこと）	2
○効果的な伝え方を考える。 ○資料を作成する。	◇目的や状況に応じて，資料や機器などを効果的に活用している。（話すこと・聞くこと） ◇説明に対する聞き手の意見や質問を予想して，話の中心と付加的な部分との関係に注意し，分かりやすい構成や展開を考えている。（話すこと・聞くこと）	2
○リハーサルをする。 ○手直しをする。	◇他の班のプレゼンテーションを聞き，よいところを見つけようとする。（関心・意欲・態度）	2

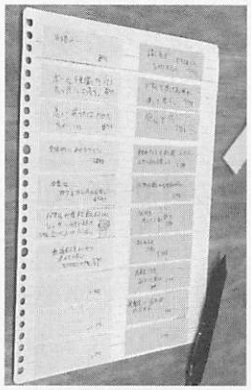
	◇相手の考えを尊重し，目的に沿って話し合い，互いの発言を検討して自分の考えを広げている。(話すこと･聞くこと)	
○プレゼンテーションをする。	◇話し言葉と書き言葉との違い，敬語の働きなどについて理解して話したり聞いたりしている。 ◇目的や状況に応じて，資料や機器などを効果的に活用している。(話すこと・聞くこと)	1
○振り返る。	◇自分自身や他者の発表について振り返り，そのよさや課題を確認することができる。	1

本単元では下級生にプレゼンテーションを行う計画を立て，実践し，振り返る活動を通して，分かりやすい説明をするための資料の工夫をすること，わかりやすく説明するための構成や展開を工夫することを目標とした。その過程では①何を，どのように説明すればよいのか②資料をどのように活用するのか③役割をどうするのか④予想される質問やそれに対する応答をどうするのか，等の話し合うべき課題がある。それぞれの課題について話し合い，関わり合うことを通して，他者を尊重する心をもち，ともに学び合い，高め合おうとする生徒を育てたいと考えた。また，一通りできあがったプレゼンテーションは，他の班と交流することでお互いの良さに気付いたり，よりよい表現や工夫に気付いたりするきっかけとさせた。実際に１年生に対してプレゼンテーションを行い，その反応を実感することで，自己肯定感を高めることにつなげようと考えた。

イ　授業の実際（６／９時間）

主　題	プレゼンテーションをしよう　―リハーサルをして分かりやすさを確かめよう―
ねらい	○互いのプレゼンテーションを聞き，構成や展開，言葉等が分かりやすいかどうか，自分の意見と比較して納得できるかどうか判断することができる。 ○他の班のプレゼンテーションを意欲的に聞き，よいところを積極的に見つけることができる。

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ　•生徒の反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　前時までの学習を振り返り，プレゼンテーション，リハーサルの目的を確認する。(一斉)	5	○今回は，誰に，何を，どんなふうにプレゼンテーションするのか確認しておこう。 ○分かりやすいプレゼンテーションの条件は？ •ポイントを絞る。 •図やグラフ，写真を効果的に使う。 •大きな声　•間　•構成を工夫する。	○目的意識，相手意識を明確にさせた。 ○プレゼンテーション作成の工夫点について確認することによって，評価の視点を明らかにさせた。
2　リハーサルをする。(小集団)  リハーサルの様子	25	プレゼンテーションをしよう。 ―リハーサル― ○分かりやすいプレゼンテーションになっているか，お互いに確認し合おう。 •しっかり聞いてアドバイスしよう。	○自分の意見を具体的にもたせるために項目ごとに付箋を用意し，気付いたことやもっと知りたいことをメモさせた。 ◇他の班のプレゼンテーションを聞き，よいところを見つけようとする。(観察･ワークシートの記述分析)

3　意見を交流する。 （個人→小集団）  ふせんに書いた意見	10	○自分の班のプレゼンテーションとは違うところに注目して，お互いの意見を交流しよう。 • 写真が分かりやすかった。 • 資料の見せ方が上手だ。 • 字がもう少し大きければ見やすい。  意見の交流	○付箋も相手に手渡し，後の話し合いの資料とさせることによって，課題を明確にさせた。 ◇相手の考えを尊重し，目的に沿って話し合い，互いの発言を検討して自分の考えを広げている。（観察・ワークシートの記述分析）
4　アドバイスを共有する。（全体）	10	○もらったアドバイスをみんなで確認しよう。 • そのアドバイスは自分たちにも応用できそうだ。	
5　本時のまとめを行い，次時の活動の確認を行う。 （一斉）	5	○今日の授業について振り返ろう。 • 自分たちだけでは考えつかなかった意見がもらえたな。 • 次回はもっと分かりやすくなるよう修正しよう。	○自分の考えの変容や交流した効果について実感させ，次時への意欲を高めるために，今日の授業の成果を振り返らせた。

4　考察

(1)　研究の視点

授業研究の視点	○プレゼンテーションを聞くときに付箋を利用して意見を交換し，課題を明確にしたり自己肯定感を高めたりすることは，よりよい表現を求めようとする心情を高めるのに効果的であったか。 ○リハーサルを見てアドバイスし合い，わかりやすさを確認することは協同の精神を育成し，表現力を高める手段として適切であったか。

研究授業を見ていただいた先生方の意見を以下に整理して挙げる。

○プレゼンテーションを聞くときに付箋を利用して意見を交換し，課題を明確にしたり自己肯定感を高めたりすることは，よりよい表現を求めようとする心情を高めるのに効果的であったか。
○付箋を利用することが即，自己肯定感を高めることにはつながらない。もらってありがたい意見を紹介する場も必要ではないか。 ○付箋をたくさんもらい分類して分析するなかで，生徒たちは「よりよい表現」とはどんな表現でどのようにして改善するのかを考えることができた。困っていた生徒や改善点の付箋に不満を持つ生徒もいたが，教師がよかった点の付箋に着目させたことにより，意識に変化が見られたように感じた。

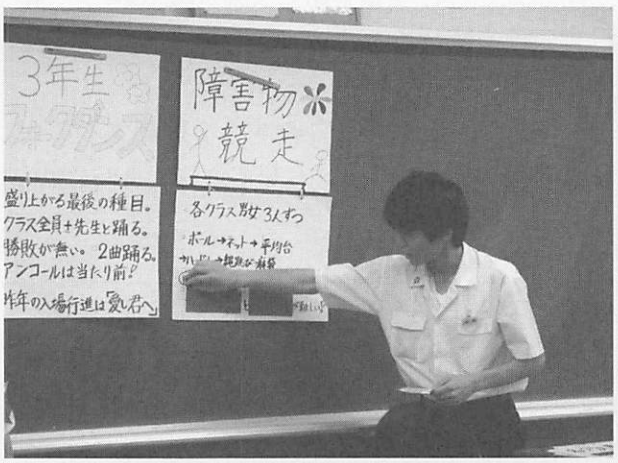
○「こんなところがよかったよね」で終わりがちだが，「こんなところがいかんかったよね」も大事であるはず。
○付箋の数だけでいい評価が多いと言っていた班があった。内容が大事なのではないか。
○付箋の利用によって課題が明確になり，自己肯定感が高まればよりよい表現につながる。しかし，今回は場の設定がよかったのではないか。本時の中でよりよい表現にするための工夫を検討したい。

○リハーサルを見てアドバイスし合い，わかりやすさを確認することは協同の精神を育成し，表現力を高める手段として適切であったか。

○「わかりやすい説明」とは，どうなったらその状態になるのかを明らかにしておく必要がある。生徒たちが意識してわかるレベルの「わかりやすい構成」が話合いで出てくれば，協同の学びになる。
○改善点を「文句」だと受け取っている班があった。それは協同の学びではない。どうすればよいかを考える必要がある。
○ひと班ずつわかりやすさを発表し，聞くことで，その後の班での話合いが活発なものとなっていた。次時の手直しでさらに表現力が高められる内容のプレゼンテーションになると思う。
○よく協力して話し合っていた。
○「アドバイスし合い，わかりやすさを確認すること」は「表現を高める手段として適切」だと思うが，「協同の精神を育成」したかは，疑問が残る。

(2) 生徒の活動の様子やワークシート等の分析（と今後の課題）

この授業の後，生徒は付箋でもらった意見や話し合いで出た意見をもとに手直しを行い，１年生の教室へ出向いて実際にプレゼンテーションを行った。リハーサルよりも資料を分かりやすく書き直した班や，画像を選び直した班，資料の提示の仕方や話し方に改善を加えた班など，それぞれがよりよいプレゼンテーションを行うことができた。自信をもって，笑顔で話せた生徒が多かったのも印象的であった。





１年生へのプレゼンテーションの様子

事前に行ったアンケートで「発表が苦手だ」と回答していた生徒は，班のメンバーとうまく助け合いながら笑顔で活動し，自分の役割を果たすことができた。事後のアンケートでも大きく回答が変わることはなかったが，授業後のワークシートには「声の大きさに注意して発表できたけど，もう少し１年生のほうを見て話せたらいいと思う」「練習したことが生かせたのでよかった」

という前向きな意見が書かれていた。

プレゼンテーションを終えたあとの感想を以下に挙げる。

○どの班もいろんな工夫をしていたり，リハーサルの時よりもよくなっていてよかったと思います。
○今回のプレゼンテーションは，運動会のことについてよく知らない１年生に説明したので少し不安だったけど，感想で「分かりやすく，おもしろかった」と言われてうれしかったです。
○自分では大きな声でしゃべっているつもりでも，聞き手側には聞こえなかったり，聞き取りにくかったりするということがわかった。
○どの班も，リハーサル後に工夫を加えて，わかりやすくなっていて良かったと思う。最後の質問タイムの時にイマイチしっかり答えられていなかったので，そこを改善するとわかりやすいと思う。
○全体的にリハーサルの時よりもみんなに伝えることができたと思う。
○リハーサルの時に他の班に言ってもらったことを生かした。

リハーサル直後には改善点を多くもらって不満を漏らしていた班も，意見を交換して手直したことで，自分たちのプレゼンテーションが良くなったと感じていたようである。自己肯定感や自己有用感が高まったかどうかは十分に検証できていないが，他者と交流するよさを実感していることは確かだろうと考える。

本研究では，目的を明確にして仲間と関わり合う場を設定し，分かりやすい説明とはどういうものかについて考えを深めさせ，表現力を高める手立てを模索してきた。表現力を高めるために他者と関わる場として今回設定したのは以下の４つである。

①今までの自分の経験や学習を振り返り，「分かりやすさ」について確認する。
②分担して資料を作成するために，必要な資料について話し合う。
③リハーサルで他の班の発表を見聞きすることによって，「分かりやすさ」を再確認する。
④自分たちの発表をよりよいものにするために話し合う。

特に③については主題に迫るためものであり，この授業と次時で協同の学びとして展開することを意図したものであった。明確な目的意識は積極的な交流を生み，より分かりやすいプレゼンテーションを目指して生徒が学び合う場が構築できたと考える。単元全体を通してみると，意見交換で得られた他者の意見が自分の表現をよくするという，交流の有用性を実感することはできた。また，他者の意見を踏まえてプレゼンテーションを行うことにより自信をもって話すことができ，１年生から認められることまでを通して，自己肯定感が育まれたととらえている。しかし，協同の場の設定としては不十分であり，付箋の利用のしかた，意見を交流する際の課題意識の持たせ方には課題が残った。また，今回の実践では目的意識を明確にするために題材を生徒の身近なところに求めたため，社会生活に関係のない題材選定となってしまった。次の実践では，題材を社会生活に求めつつ，目的意識が明確にできるものを探るとともに，協同の学びによって表現力を高める具体的な方策を探っていきたい。

第３章　おわりに

研究（その１）では，他者との交流活動を通して，俳句を創作させる活動を行った。プレ「句会」を行い，他者の俳句のよさに気付き，そのよさを伝え，その気付きを活かしながら次の創作活動につなげることができた。特に，他者の俳句を鑑賞する場面では，鑑賞のポイントを押さえながら鑑賞することができていた。また，プレ「句会」を行ったあとに，２回目の俳句の創作を行ったが，交流活動を通して気付いたことや参考になった点などを押さえたからか，２回目の俳句の創作の作品の方が満足したものができたと感じている生徒が多かった。しかし，交流活動においては，不十分な点もあった。「話す・聞く」活動では「どう聞かせるのか」「どう言葉を返すのか」といったところを押さえ，話し合わせることをもっと意識することが重要だと思う。今後も今回の課題を踏まえた実践をしていきたい。

研究（その２）では，創作活動・交流活動を取り入れ，生徒一人一人の表現をよりよいものにしていくことで，一人一人の書く力，表現力を高める学習指導につなげることができた。特に，ワークシートを工夫することで書き始めの抵抗感を軽減したり，付箋紙を利用することで他者からのアドバイスを適切に取り入れ，自分の表現を見直したり，あるいは相手から自分の気に入った表現を指摘してもらうことで，自信をもって次の創作活動に臨んだりすることができるようになった。今後は相手の考えを受け入れるにとどまらず，お互いの違いを明らかにしながらお互いの表現を磨き合えるような場の設定を考えるなどの工夫を行いたい。また，単元を通して目的意識・課題意識を継続してもちながら，書く力の差にかかわらずすべての生徒が「よりよい表現ができるようになった」「成長できた」と思えるような実践に今後もしていきたい。

研究（その３）では，プレゼンテーションを行う学習の中で仲間と関わり合う場を設定し，仲間と学び合うことで表現力を高めることを試みた。目的意識を明確にし，「分かりやすく伝える」という目標のために意見を交流することを通して学び合うことができたが，課題意識の持たせ方には課題が残っており，十分に表現力が高まったとは言えないのが現状である。今後は題材を社会生活に求めつつ，協同の学びの場をより工夫して，表現力を高める具体的な方策を探っていきたい。

今回の研究では，仲間とのよりよい関係の中で互いを認め合わせながら表現力を高めていくことができた。特に，自分の表現をより良いものにしていくために仲間と関わる場面を設定することで，自分の表現の良さを発見，あるいは再確認し，自己肯定感を高めながら次の表現活動に意欲的に向かう姿勢が見られた。今後は交流活動をさらに深めるための方法を探ることで，一人一人の表現力をより一層育てられるようにしていきたい。